

創立143周年



学校だより

は え

南風の子

中種子町立
南界小学校

平成28年7月8日(金)発行

努力を認め励まし、成長を共に喜ぶ

校長 岡留 祐宏

台風1号で天気も一変。台風通過後には、梅雨明け宣言となるのでしょうか。一学期も20日には終業式を迎えます。まとめ、振り返りの時期です。この1学期の学習面を振り返ってみます。

- 読み、書き、計算をすらすらできる
- 相手の話をきちんと聞く、自分の意見をしっかり話す
- 習ったことをもとに筋道立てて考えたり、理由を明確にして説明したり、話し合ったりする



授業中はもちろんですが、児童集会や行事のときなどの進行や発表、先生や友だちに用件を伝える際のやりとりなど、いろいろな場面をとおして、子どもたちもその意識を高めつつありますが、今後さらに高めていく必要があると思います。また、家庭学習においても、音読、漢字や計算はスムーズにできているか、問題を解くときに、「～だから、～になる」という理由付けはできるか、習った言葉の意味が曖昧なままになっていないか、あるいは、日頃の会話のやりとりにおいても、相手を見て聞いたり話したりすることや、単語中心のやりとりではなく、ひとまとまりの内容をきちんと伝えているか、具体的な中身を伴って「楽しかった、嬉しかった、悲しかった」ことを伝えようとしているかなどです。一声かけて意識させたり、話し方を示してあげたりしていくことが必要だろうと思います。

次に、心の面についてです。将来の自分を前向きに見る心を育てることを目指してきました。

- 一人一人の良さを生かし、伸ばしていくこと（自分の良さに気付くこと）
- 基本的な生活習慣（挨拶、返事、後始末）、思いやりの心、善悪を判断し律する心

「自分の長所や短所、できること・できないことも含めて、自分のことを前向きにとらえる」心は、積極性を生み、豊かな体験の積み重ねにつながります。「必ずできるようになる」と自分を信じる力を生みます。すると、頑張っている自分の存在を認められるようになるとともに、他の人も受け入れられるようになる。自他共に生きるより良い関係づくりにもつながるといえます。この一学期、子どもたちは、できること・できないことに直面しながら挑戦を繰り返してきました。頑張りを認め、わずかであっても成長したことを一緒に喜ぶことで、今後、さらに、前向きな心を育てていけるとと思います。松下幸之助氏の「苦勞が希望に変わってきます」という言葉を、子どもたちも私たちも実感できるようになりたいと思うことです。

う歯治療の促・メティアルールの徹底 ～ 学校保健委員会より ～

先日の学校保健委員会で、西之表保健所の歯科衛生士の野元先生の講話にありましたように、鹿児島県のう歯の状況は全国でもワースト3位以内であること、そして、熊毛地区はその鹿児島県内でも、最もう歯状況が厳しい状況であることを、保護者の方々と一緒に確認することができました。子どもたちの健康維持、健全な成長のために、本校もう歯治療をどうしても進めなければならないと感じました。「医療費助成制度」を活用していただき、この夏休み中にぜひ治療に努めてください。

また、町の学校保健会で、メティアルールが話題になりました。スポーツ少年団の大会や子ども会活動にゲーム機を持って来る子どもたちがいること。ゲーム機等を持たせないことを全学校の少年団、子ども会で徹底できないかということです。メティアルールは家庭判断になることもありますが、少年団体に限らず、本来の趣旨を踏まえ、不必要な物は持たせないという大人の一貫した姿勢が必要だと思っています。学校、PTA、少年団、家庭含めた共通実践につなげていく必要があると思います。